



談話室

科学と絵画

水野 澄子

微生物の研究から得られた微生物に対する気持ちを油絵で描いています。

はじめに

社会人になった時、一生続けられる趣味を持つといういろいろ考えた末、絵画と茶道を選択しました。その他も都度行ったりしていますが、研究関係と油絵と茶道の3種をぐるぐる廻りながら今日にいたっています。

実験に必要な項目を、油絵には解釈と観察力を求め、茶道には静寂と集中力を求め、実験にはひたすら、どんなに小さい事でも良いので新しい事項の新発見を求めました。

具象画も描きますが、半具象¹⁾の油絵を同時に描いています。

題材は実験で用いていた微生物に対する崇拜にも似た気持ちです。それは、脈々と続く生物の根源で、生きる、生き抜く、馴致する、変幻自在で時代と自然の中に存在する力を感じるからです。

小学5、6年、中学2年と世田谷区の科学教室に通いました。世田谷区の各学校の生徒が1~2名ずつ集まり1年間、科学の先生が立てたカリキュラムに従い、実験や研究報告をするという内容でした。先生がおっしゃった中で「将来、皆が大人になる頃には科学の時代になるので、この中から一人でも科学の道を選んでくれたら」という言葉を今でも覚えています。

その教室で、スンプという試薬を用いて試料を準備すると顕微鏡で細胞が見られる事を教わり、おこずかいを貯めて初めて買ったのが顕微鏡でした。庭に咲く花の花粉を顕微鏡で見て記載し、もう片面にはその花の絵をスケッチしました。大人になったら実験する人になるという事が目標となり、何か新しい事を見つける事が小さい頃からの夢となりました。

描いた絵の中から、今回は科学に近い3点をご紹介します。

微生物の世界シリーズ

微生物も、人間、動物、植物、昆虫、魚と一緒に世界に住んでいる同じ生物の仲間だと感じてもらいたくて、微生物の宣伝隊のような気持ちで描いています²⁾。

実験をしていると丁寧に扱うと生産量が増したりして、微生物にも喜びとか悲しみとかの感情があるように

感じてくるのです。

環境問題が大きくなってきた現代、馴致力や生き抜く力に人間も何かを学ぶ必要があるのかもしれない。



図1. 題名「微生物の世界（酵母）1-4」F30号 油絵。於：BELINER LISTE Germany 2012.

空飛ぶ細胞（彼方から）

最近とみに、微生物も人間も地球も宇宙をも含む共通する不思議の世界を感じています。



図2. 題名「空飛ぶ細胞（彼方から）」F30号。作品の版画版をルーブル・ランスに寄贈。

著者紹介 (株)三菱ケミカルホールディングス グループ 三菱化学 (株) (元職)

(国)理化学研究所 バイオリソースセンター 情報解析技術室 (現職) E-mail: hal52790@rio.odn.ne.jp

おおよそ、30年間微生物、細胞など、生物関係の実験に携わってきました。微生物の代謝も人間の代謝も宇宙に存在する物質も共通した物が見いだされてきています^{3,4)}。

以前、次世代産業基盤技術研究開発制度ナショナル・プロジェクトの中でメタノールの利用の研究に携わった事があります。そのメタノール代謝物と同じ物質が宇宙にも存在する事を知り不思議を感じます。生命の誕生がどこから起きたのかの研究も世界各国で盛んに行われていますが、その私なりの思いを「空飛ぶ細胞（彼方から）」で描いています。宇宙から何か生命誕生の核になるような物質が飛んできて、そこからいろいろの条件が重なり誕生したのではとか、勝手に考えて描いています。

叡智（ケネディ宇宙センター）

以前よりロケットの絵が描きたいと思っていました。

2010年アメリカのフロリダ NASA ケネディ宇宙センターにて「国際平和美術展」があり、「空を飛ぶ」F20号の油絵と空飛ぶ細胞の絵を貼ったスペースシャトルオブジェを出品しました。宇宙飛行士の講演もあり、管制塔も拝見し感動いたしました。

宇宙に向けてロケットを飛ばすという事は微細な細胞から始まり長い時を経て成長した、地球の生き物の人間

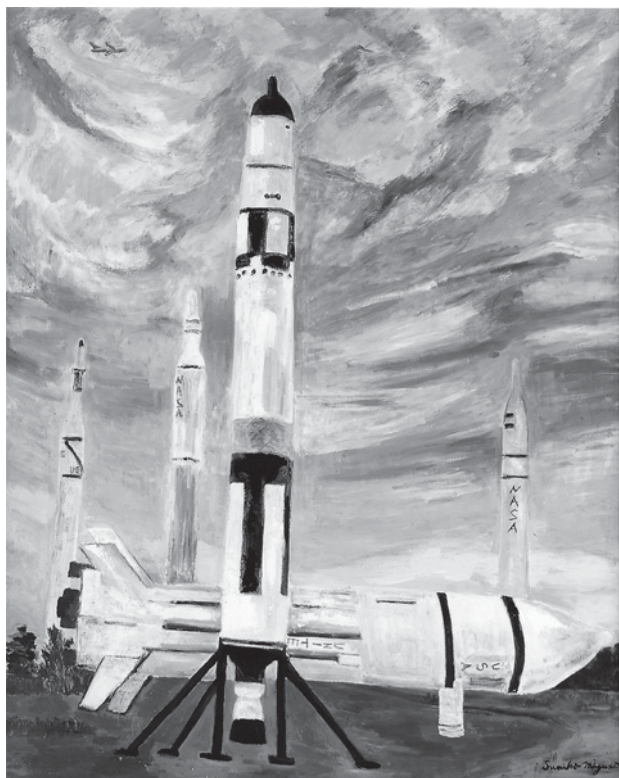


図3. 第78会東光会展. 於：東京都美術館「叡智（ケネディ宇宙センター）」F100号 油彩(2012).

というすべての自然の中の一部がもたらした、宇宙への回帰だと思えます。宇宙から飛んできた、あるいは宇宙に飛んで行くと思われる、細胞発生の根源の進歩の過程から発達した人間の能力の結集で、叡智の賜物だと思えます。

あとがき

2014年10月、パリのユネスコ本部での「世界平和美術展」に「富士山（江の島）」⁵⁾F20号の油絵を出品し、同ユネスコにて茶道をし、大使らを含め皆様方に呈茶をしました。

同時開催の、科学者でもあるレオナルド・ダ・ヴィンチの終焉のクロリュセ城にてダ・ヴィンチの科学発明品が展示されている中での「ダ・ヴィンチが見た夢展」の展覧会に「長閑」F20号の油絵を出品しました。それはまさしく科学と絵画と茶道が一緒なる機会でした。何とも感慨深い日となりました。

会社生活では多くの事を学び、最先端の研究環境の整っている中、いろいろな実験をさせていただきました。たくさんのメンバーの皆様方に支えられて、また、会社に関係する大学の先生方や外部の方々にも支えられて、良い時間を過ごさせていただき心より感謝しています。

さらに現在は新しい環境で温かい皆様を支えられて過ごせる時間が貴重で有難く感じています。

最近、ますます生物の誕生も人間の存在も宇宙の存在もすべての存在が不思議で不思議でたまりません。

今後も皆様方の最先端の研究を拝聴、拝読させていただきながら、自由な気持ちで考え、発想し油絵を描きたいと思っております。

今後とも何かとお教えいただけますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、宇宙の情報をお教えいただきました、北海道大学低温科学研究所雪氷新領域部門渡部直樹教授に御礼申し上げます。

また、この度の貴重な機会を作っていただきました、一般財団法人バイオインダストリー協会様、公益社団法人日本生物工学会様に感謝し、厚く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 水野澄子：原点を求めて、美研インターナショナル出版(2009).
- 2) 水野澄子ら：バイオサイエンスとインダストリー、66, 12, 658(2008).
- 3) Kato, N. *et al.*: *Appl. Microbiol. Biotechnol.*, 27, 567(1988).
- 4) Ball, J. A. *et al.*: *Astrophys. J.*, 162, L203(1970).
- 5) 水野澄子：日本の美 富士山, p. 292, 美術年鑑社(2013).

